

KADAIGEST 2023 2



① 高知大学と合同チームで出場したリーグ戦の最終試合、試合開始前の挨拶 ② リーグ戦得点後の抱擁 ③ みんな仲良く教育組マネージャー ④ 一年生だけで行う大会の一幕、相手からボールを奪い自チームへパスを繋げる直前のシーン ⑤ 今年のOB戦での試合開始のフェイスオフの前。 ⑥ 毎回練習前に行うチア(掛け声)は、毎年仕様が異なり、今年はサンダー!と叫びながらクロスを高く掲げる

香川大学 ラクロス部(男子・女子)

香川大学ラクロス部です。ラクロスってなんだ?と思う方も多いと思うので少し紹介します!男女ともに共通するのは、クロスと呼ばれる棒でボールを運び、相手陣のゴールに入れることで得点を争う球技です。男子だと「地上最速の格闘球技」と呼ばれていたり、ラクロスの魅力は語りきれない程です!!

男子は「リーグ戦全勝、一部昇格」、女子は他大学との交流や支えてくださる方々の絆、次の代への繋がりを大切に、感謝の気持ちと共にラクロスに励むことを目標に日々の練習に励んでいます。

私たちの入部理由としては、やはりラクロスはカレッジスポーツであるため、人生の節目となる大学入学を機に、中学校・高校で

はやってこなかった新たなスポーツに「挑戦」してみたいというものが多くあります。

ルールにしても、手に持つ道具にしてもとにかく初めての経験ばかりの毎日であり、そんな部活動の中で新たな発見に出逢う楽しさと、だんだんと成長することへの喜びが、一番のやりがいだと感じています。

スタートが同じだからこそ、新しいことに挑戦したい人やとにかく体を動かしたいといった人にはオススメです。また、プレイヤーを支えるマネージャーというポジションもあります!気になる方はSNSを見ていただくか、グラウンドへ足をお運びください!!

活動場所 ・香川大学経済グラウンド、教育グラウンド

活動時間 ・男子:火・木・土・日曜日

・女子:月・火・木・日曜日

部員数 ・男子 PL:17名 MG:4名

・女子 PL:4名 MG:3名

Instagram ・(男子)@kagawa_lax

・(女子)@kagawa_23lgk

Twitter ・(男子)@kagawa_dlax

・(女子)@kagawa_lgk

連絡方法 (連絡先) SNSのDMまで

(男子)

教育学部2年
大野 真季

広島県立
三原高等学校



練習が終わったあとの部員総出の玉集めのコマ

(女子)

農学部3年
河合 柚希

岐阜東高等学校



香川大学女子ラクロス部のシンボルである花のマークを、ジャスチャーで表現しています。



医学部ボランティアサークル カンボジアの児童に衣類を届ける寄付活動



サイズの合う服を手にした児童たち



医学部ボランティアサークル
あなたの家に子供用の長袖服
ありませんか？

カンボジアの子供たちに寄付するため、
子供用の長袖服を集めています！！

場所：看護科ラウンジ・医学科ラウンジ

皆様のご協力をいただければ幸いです。

香川大学医学部ボランティアサークルでは、看護学科、臨床心理学科の学生を中心に主にALSの患者さんとそのご家族とのオンライン交流を定期的に行っています。私自身医療従事者を志すうえで患者さんやそのご家族の気持ちや思いを学ばせていただきたいと考え参加しています。

2019年度の「カンボジアスタディツアー」での先輩方の活動から、カンボジアの学校現場の実態を知り、また日本と海外の問題意識の相違を理解することの大切さやカンボジアの小学校における徹底した衛生管理を確立するために、大学内で固形石鹸やタオルを集め寄付するといった学生が主体となって目標を持って行動することの重要性を学びました。

SDGsの目標の一つに「すべての人に健康と福祉を」というものがあり、日本のみならず海外の医療や福祉に目を向けて活動することの必要性を私自身も感じました。コロナ

禍において直接の交流は難しいもの自分たちにできる活動として今回のカンボジアへの衣服の寄付活動を実施しました。

活動を通して様々な困難にもぶつかりました。発展途上国の中には、住所が不特定な場所があり衣服を現地に届けるために配送手段を工夫する必要がありました。現地の方とメールや手紙のやりとりをする際には、自分たちの想いを伝えるためにどのような表現を使うとよいか悩みました。サークルメンバーや先生と試行錯誤しながら取り組めたことは大きな経験となりました。

カンボジアでは異常気象の影響により、気温が低下し続けている一方で、長袖が普及しておらず現地の子どもたちが寒さに凍えているため長袖や長ズボンを支援してほしいという依頼がありました。集めた子ども用の衣服にサークルメンバーの写真付きのメッセージカードを添えて現地へと届けたとこ

ろ、現地の子どもたちが喜んでる動画や写真が送られてきて胸が熱くなりました。

配送やコミュニケーションなどの困難はあったものの先生方やサークルメンバーと協力し活動をやり遂げることができたこと、何よりカンボジアの子どもたちの笑顔を見ることができたことが本当に嬉しかったです。支援をする際にはニーズを考えることはもちろん、計画段階で変化していく状況に対して柔軟に対応する力、定期的に情報を共有しコミュニケーションを図ることが重要だと分かりました。このことは自分が医療現場において働くうえでも心掛けていきたいです。



医学部4年 多田 和貴
香川県立高松高等学校 出身



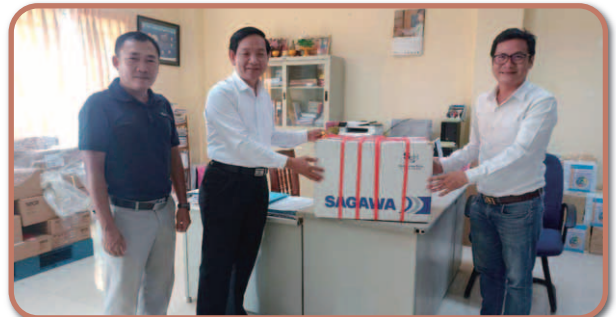
支援箱を作る学生たちの様子



サークルメンバーの弟妹の中古衣類を集めアイロンをかけてメッセージカードを一枚ずつに添付



衣類寄付を届けたシェムリアップ州プラサート小学校の位置。荷物は、高松空港から、羽田空港、バンコクで乗り換えられ、プノンペン空港へ。プノンペンの教育青年スポーツ省学校保健局からCJAIにより路線バスでシェムリアップのCJAI事務所へ。そこからバンでプラサート小学校へ届けられた。



ベトナムに届いた荷物を配送業者に手渡し様子



衣類には、サークルメンバーの写真を一枚ずつに添付した。



カンボジア教育青年スポーツ省が高地の寒い地域で貧しい学校として紹介されたシェムリアップ州プラサート小学校（児童数約300名）に荷物を届けた。

香川大生とカンボジアの繋がりはサークル活動だけに留まりません



栗林公園にて記念写真

ボランティアサークルの顧問でもある医学部慢性期成人看護学清水教授が実施する、文部科学省「日本型教育の海外展開（EDU-port ニッポン）」の調査研究事業の一環として政府要人、カンボジア王国教育青年スポーツ省学校保健局ユン・クンテアリス副局長、同局技術部スオン・ピレーブ技師が研修のために来日した際に、教育学部生が日本文化研修ガイドとして栗林公園等を案内しました。参加した学生たちからは、「簡単な英語で何度かお話し

た際、嬉しそうに答えて下さり、伝わったことが何よりの喜びでした。これからさらに英語を勉強し、スムーズに外国の方とコミュニケーションをとりたいと感じた。」「なかなかこのような機会はないので、本当に参加してよかった。」「言葉だけでなく、ジェスチャーなどでコミュニケーションを図ることができた。」などの感想が寄せられました。

教育学部1年 冨村 奈由
教育学部1年 林 香音瑠
教育学部1年 辻 涼香

TOPICS

『しっとり感』と『温もり感』を感じられる指先型触覚センサの開発成果と 主要な国際会議 (IEEE MEMS2023) における受賞 2/10



素材が持つ「しっとり感」と「温もり感」は、触り心地の良さの決め手となる感覚です。この度、創造工学部 機械システム工学領域 高尾英邦教授らの研究チームは、指先の様に対象の「しっとり感（乾湿感）」と「温もり感（冷温感）」をそれぞれ正確に感じ取り、場所ごとにおける違いを1ミリメートル以下の位置精度で見分けられる指先型半導体触覚センサの開発に成功しました。

本成果に関して、2023年1月15日～19日にドイツで開催されたIEEE MEMS2023国際会議にて、本学大学院生の山田原暉さんと三瀬奈智さんが「しっとり感」と「温もり感」のセンシング技術をそれぞれ発表しました。事前の論文審査の結果「しっとり感」の論文が「Outstanding Student Oral Presentation Award Finalist」（全635件中20件）に選出され、「温もり感」の論文も「Outstanding Student Poster Presentation Award

Finalist」（全635件中10件）に選出されました。現地での発表とFinalist最終審査の結果、「温もり感」の研究が「Outstanding Student Poster Presentation Award Winner」を受賞し、研究に対して極めて高い評価が得られました。



IEEE MEMS2023 Award Winner 表彰式の様子

令和4年度学生支援プロジェクト事業最終報告会オンライン開催 3/1



令和4年度学生支援プロジェクト事業最終報告会を開催しました。

学生支援プロジェクト事業は、学生が自ら企画・立案し実施する、魅力的・独創的な活動に対して、大学が支援を行うもので、地域や社会の発展を目指す「香大生の夢チャレンジプロジェクト事業」と、香川大のさらなる活性化を目指す「ものっそ香大★チャレンジプログラム」の2事業で構成されています。令和4年度は、計19件（夢プロ17件、ものっそ2件）が採択されておりました。

最終報告会では、各プロジェクトから現時点での事業の進捗状況・成果や苦心談、活動を通じて学んだこと、また、反省点や改善点、今後の展望など、事業の継続を見据えたプレゼンテーションが行われました。発表後の質疑応答では、参加者より様々な観点から質問・意見が述べられ、今後のさらなる飛躍が期待

できる報告会となりました。最後に、平野学生支援副センター長より、発表者のプレゼンテーション能力や発表資料の完成度の高さへの驚きとともに、活動を通して得られた様々な人とのつながりを大事にしながらいずれも活動を頑張ってもらいたいとの激励の言葉で、盛況のうちに閉会しました。

1. 今年度の活動状況

④ イベントへの参加



瀬戸内国際芸術祭でワークショップを行ったり、企業の方からお誘いを受け、BGPは初の東京でのワークショップを行ったりなど、活動範囲を広げることが出来た。



発表の様子



カダイジン出演者募集中 (香川大学生・教員・職員・卒業生 対象)

香川大学のまだ知られていない凄い人を取り上げる企画で、「立候補」と「推薦」で募集しております。是非ご応募ください!

学内の方はこちらから応募できます (選考あり)

<https://forms.office.com/r/CMd3jyTnzW>

↓学外の方はこちらのメールから応募できます (選考あり)

kouhougakuseistaff-h@kagawa-u.ac.jp

(メール記載事項)

- ・連絡先
- ・お名前
- ・アピールポイント (写真や動画などを含む)

今までのカダイジンの紹介はこちら



あなたのご意見をお聞かせください!

「KADAIGEST」では、本誌に関するアンケートを行っています。ご回答いただいた方の中から抽選で2名様に香川大学オリジナルバッグをプレゼントします。

香川大学に関する話題や発信してほしいこと、ご意見など何でもお寄せください。

こちらのQRコードからアンケートにアクセスできます
※令和5年5月31日締切

